

令和2年度新・放課後子ども総合プラン指導者研修会（紀南会場）

1. 日時 令和2年10月11日（日） 13時30分～16時30分
2. 場所 上富田文化会館
3. 参加者 放課後子ども教室、土曜日等子ども教室、いきいき交流教室、
子どもの居場所づくり等の関係者
放課後児童クラブ関係者 合計56名

4. 行政説明

- ◆和歌山県教育委員会生涯学習課 社会教育主事 安保 敦史
「子供が楽しく、喜びあふれる 居場所づくりをめざして」 [【PDF】](#)
- ◆和歌山県福祉保健部子ども未来課 副主査 山野 晃弘
 - ・新型コロナウイルス感染症の予防のために注意すべきことについて
 - ・放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準の改正について
 - ・放課後児童健全育成事業における事故の報告等について [【PDF】](#)

5. 講演「子どもの心をつかむために大切なこと」

〈講師〉 社会福祉法人 アトム共同福祉会 理事長 市原 悟子 氏

○NHKスペシャル「アトム共同保育園の実践」（2003年）

子供は大人の管理のもとで育つのではなく、子供同士が思いをぶつけあい、育ちあう。そのために周りの大人は、子供が思いを出せるようにサポートしていく必要がある。アトム共同保育所では、保護者と保育士が集まる機会を作り、子供の様子や子育ての悩みについて話し合い、互いに共感したりアドバイスしあったりしながら、安心して子育てができるようにしている。

○子供を育てる大人が子供の頃を忘れ、大人の指示で従わせようとしがち。

子供の心をつかむために大切なことは、大人の気持ちではなく、子供の気持ちになり「今、子供はどんな気持ちなのか」と想像すること。そうすると子供がしたいことや、したくないことが分かる。分かった上で子供に伝える言葉と、全く分からないまま子供に伝える言葉では、言葉の意味が違うので、まず子供の気持ちになることが大切である。



○決まり事を守らせようとする育て方

子供一人一人が、自分の頭や心をフルに動かし感じながら、判断していくことが弱くなってきている。指示に従わせることが続くと考えない子供や大人になっていく。今の子供がどんな状態や環境で育っているのかを理解し、自分たちが育った環境よりも大変な状況にあると認識する。

○人が人間になるということ

子供が群れの中で育つことにより、自分がどんな人間なのかを気づき、友達も自分と違うということを感じる。その中で自分と違う人間がいるということに気づく。これが「人が人間になる」ということである。

○人が育つ風景

近年、少子化や核家族の増加から近隣とのやり取りや、家族以外との関わりが減ることで大人も群れない環境で過ごし、子供も群れて遊ぶことがなくなってきている。そこで、保育所（園）・幼稚園や放課後活動（放課後子ども教室や学童保育等を含む。）では、人の育ちに大切な「群れを作って遊ぶ」体験を保障する場になることが大事である。

○今時の若者や親の特徴

仕事においては、マニュアルを求め、自分で判断する力が弱い。そのような人は、大人の指示に従い、自分で考える経験が少ないまま大人になっているという共通点がある。また、家族以外の大人との交流が少なく、狭い範囲で育った子供たちは、自分の家と他の家との違いが分からず、他人への興味を持たなくなっている。



6. 意見交換会

①参加者より…食べるのが遅い子供をどう指導すればよいのか。

市原氏より…放課後活動だけでそうなのか、学校では時間内に食べることができているのか。放課後活動では家と同じ感覚で、好き放題するような傾向がある。食べるという行動で、その子が何かを表している可能性もある。そのペースでしか食べられないなら「ゆっくり食べていいよ」と言うしかない。

②参加者より…トラブルは子供同士で解決すべきか。限られた時間内で子供たちだけで解決するのは難しい。

市原氏より…小学生になると、周囲が自分たちのことをどう思っているのか気になる。学校では比較的静かな子供でも、放課後活動で過ごす時間にイライラが出てくる。それはよくあることで、それをトラブルとして捉えるのか、日常的な「あってもよいこと」として捉えるのか、「これは絶対にお互いが納得するまでさせてあげないと」と、捉えるのか区別したらどうか。とことんやらないと気が済まないということがある。その時には時間がかかろうと、やり取りをすることの大切さを考えて時間を割いて話をすることも大事である。

③参加者より…「私の前から消えてほしい」など、聞いていて気持ちがよくない言葉を使う子供に対してどう対応すればいいのか。

市原氏より…聞いていて、気持ちがよいことではないということを伝える。言われて気持ちがよい言葉ではないので、「やめてほしい」と子供に伝える。「私の前から消えてほしい」ということは、その子にとって何かを邪魔されるとか、何か注意されることがあって、私の前から消えてほしいという気持ちがあるのかもしれない。

④参加者より…子供たちにあだ名で呼ばれている指導員に対して、よく思っていない大人もいる。子供との信頼関係があれば、必ずしも「先生」とつけて呼ばなくてもいいのではないかと思うがどうか。

市原氏より…位置づけの問題で、アトム共同保育園では呼び名は統一しないという方針。しかし、「先生」となぜ呼ばせないのかと言う保護者もいる。でも、「絶対呼ばせてください」という人に、「駄目です」とは言えない。放課後活動としてどう位置づけるのかは、その放課後活動の中で決めていけばよい。子供が先生をどう感じているのかが大切で、「先生」をつけることで言うことを聞くというわけではない。あくまでも「先生」は呼び名で、子供たちがその人の言うことを聞きたいと思うのかどうかである。先生というものには従うべきものだと思っている人たちが使っているのであれば、それは大人の世界の話であり、子供の世界ではどうなのか。子供が尊敬できる人となることが大事である。

⑤参加者より…「相手の立場に立ったらどう思う？」と聞くと「嫌じゃない」と答える子供への対応をどうすればよいのか。

市原氏より…子供は、聞くと「別に」とか「嫌じゃない」と答える。嫌なのに、「嫌じゃない」と言ってしまう。大人の言うとおりにしたくない気持ちが子供にはある。子供の中には怒りの感情があり、「怒らせた相手が悪い」、「相手も前に同じことをした」、「俺ばかり悪く言うな」などの思いからまず自分の味方になってほしいと感じているのではないか。

⑥参加者より…叩いたり蹴ったりする子供への対応は、どうしたらよいのか。

市原氏より…まず、何に怒っているのか、何をしてほしいのか、相手を殴りたいほど何が嫌だったのかを聞く。口で言っても、分かってくれなもので叩いてしまうことが多い。殴ることはいいことだとは思わないが、殴りたいほどの嫌な思いとはどのようなもので、その思いは相手に通じているのかと聞いてみる。言葉で表現することができれば、手を出す必要がなくなる。大人から言われるよりも、友達から指摘されることが一番具体的である。良い悪いを決めることが重要ではなく、何が嫌だったのか、口で言ったがやめてくれなかったのかなど、どういう言葉かけが必要だったのかを子供に考えさせてみる。

